

みなとからの風

〒231-8682 横浜市中区新山下3-12-1 / TEL 045-628-6100(代)




http://www.yokohama.jrc.or.jp/ ●発行：2011年9月 地域医療連携室

新任医師のご紹介

新しく就任した医師をご紹介します。今後地域の先生方と地域医療の連携を推進していきたいと存じますのでどうぞよろしくお願いいたします。

*** 質問項目 ***

①診療科(専門領域) ②取得認定医 ③卒業大学 ④卒業年度⑤趣味 ⑥地域の先生方へ一言!

<p>インベ カオル 磯部 薫</p>  <p>①歯科口腔外科 ③日本大学 ④平成20年 ⑤旅行、料理(イタリア料理、日本料理、ケーキ、etc.) ⑥「元気で優しくをモットーに診療しています。お困りなことなどありましたら、御紹介宜しくお願い致します。」</p>	<p>タニ アキラ 谷 顕</p>  <p>①精神科(精神科領域全般) ③東京医科歯科大学 ④平成18年 ⑤とくになし ⑥「よろしくお願いたします。」</p>	<p>セキグチ センキチ 関口 善吉</p>  <p>①泌尿器科(泌尿器科領域全般) ③聖マリアンナ医科大学 ④平成19年 ⑤スポーツ観戦 ⑥「今後ともどうぞよろしくお願いいたします。」</p>
<p>ナガオカ エイキ 長岡 英気</p>  <p>①心血管外科(心血管外科領域全般) ②心血管外科専門医・外科専門医・外科認定医 ③東京医科歯科大学 ④平成13年 ⑤音楽鑑賞 ⑥「がんばりますので、どうぞよろしくお願いいたします。」</p>	<p>ノジマ コウヘイ 野嶋 耕平</p>  <p>①皮膚科(皮膚科領域全般) ③徳島大学 ④平成18年 ⑤読書 ⑥「たくさんの症例を経験したいので患者さんのご紹介をお願いいたします。」</p>	<p>オクノ ナオ 奥野 奈央</p>  <p>①皮膚科(皮膚科全般) ③東京医科歯科大学 ④平成20年 ⑤旅行 ⑥「7月から赴任いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。」</p>

みなとセミナーのご案内

第102回みなとセミナー「第7回アレルギー疾患の病診連携を考える会」……

日時：平成23年10月6日(木) 19:30~21:00 テーマ：「アレルギー-地域連携症例の報告、成人の食物アレルギー(初診でおさえるべきポイント)」
場所：ホテル横浜ガーデン 講師：みなと赤十字病院アレルギーセンター医師

第103回みなとセミナー「内分泌代謝疾患セミナー」……

日時：平成23年10月7日(金) 19:00~20:30 テーマ：「甲状腺疾患の診断と治療 一日常臨床に役立つ最近の考え方」
会場：横浜市立みなと赤十字病院 講師：聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 代謝内分泌内科 部長 方波見 卓行 先生

第104回みなとセミナー「横浜みなと免疫・アレルギー講演会」……

日時：平成23年10月20日(木) 19:00~20:30 テーマ：「アレルギーセンターにおける喘息遠隔医療の現状 喘息治療のアップデート」
場所：横浜市開港記念会館1号館 講師：横浜市立みなと赤十字病院 アレルギーセンター 副部長 遠藤 淳二 先生
近畿大学医学部 呼吸器・アレルギー内科 教授 東田 有智 先生

アレルギーセンターからのお知らせ

諸般の事情により化学物資負荷試験(チャレンジブース)は23年7月をもって終了させていただきます。なお化学物質過敏症の診療は継続いたします。

みなと病院行きバス増便のお知らせ

9月5日(月)から、横浜駅前2番乗り場より、58系統みなと赤十字病院行き(正面玄関前まで)のバスが1便増便されます。病院内までバスが乗り入れますので、ぜひ患者様にご案内下さい。
横浜駅を8時37分発、みなと赤十字病院には9時3分到着予定です。なお、桜木町駅前には8時45分頃の予定となっています。



紹介患者さんのお問い合わせご予約は地域医療連携課

電話 045-628-6365 (直通) / F A X 045-628-6367 (直通FAX)
E-mail : minato-renkei@yokohama.jrc.or.jp

Contents

■東日本大震災・当院の震災対応…… 1	■新任医師のご紹介…… 4
■内科のご紹介…… 2	■みなとセミナーのご案内…… 4
■泌尿器科のご紹介…… 3	■アレルギーセンターからのお知らせ…… 4

みなとトピックス

Topics 東日本大震災・当院の震災対応

救急部長 伊藤 敏 孝

当院はDMAT(厚生労働省が認定した災害派遣チーム)派遣の指定を受けた災害拠点病院でありかつ日赤病院であることから、今回の東日本大震災に多くの救護班を派遣しました。発災当日、DMAT隊5名(医師2名、看護師1名、業務調整員2名)を発災2時間後に福島県立医大に向け派遣し、発災4時間後には日赤救護班7名(医師1名、看護師3名、薬剤師1名、業務調整員2名)を宮城県石巻市の石巻赤十字病院へ向けて派遣しました。石巻赤十字病院に派遣された救護班は、石巻地区で唯一の機能できる病院で不眠不休での診療を行いました。また、発災5日後に派遣した救護班は、福島県の災害対策本部で原発からの避難者に対する放射線のサーベイと福島県災害対策本部への支援活動、救護所での診療、福島県内で被災した病院の患者さんの県外への移送など多岐

な活動を行いました。これらのチームは出発後72時間程の活動を行いました。その後、日赤救護班として9隊を被災地へ派遣し、救護所に寝泊まりしながら巡回診療を行いました。石巻赤十字病院への病院支援として医師5名、看護師4名、薬剤師1名を6月まで派遣し、こころのケアとして7班を派遣しました。5月には福島原発での医療支援活動のためにDMAT隊を福島県にあるJビレッジ(原発から約20キロ圏内)に1週間派遣しました。最近では7月に福島原発避難者の一次帰宅支援にも派遣しています。

このように当院の災害救護活動は発災当日から現在まで長期間にわたり、発災後の時期に合わせて多岐な活動を行いました。今後も現地の要請に合わせた活動を行いたいと思います。



関節リウマチは早期診断・早期治療が大切です

膠原病リウマチ内科部長 萩山 裕之



膠原病リウマチ内科では現在写真の3名で診療を行っています。日本リウマチ学会リウマチ指導医1名、リウマチ専門医1名、後期研修医1名の体制です。

膠原病リウマチ内科と言われても、自身の診療には関係ないとお思いの先生も多いでしょうが、当科通院患者さんのなかで最多である関節リウマチは有病率が0.5-1.0%程度と言われており、決して稀な疾患ではありません。また、近年関節リウマチの治療には生物学的製剤（サイトカインなどに対する分子標的薬）など極めて高い治療効果を持つ薬が使用されるようになり、関節炎や関節破壊のほとんどない状態である“寛解”を目標とすることが可能となりました。ただ、この治療の恩恵を最大限に受けるためには、発症早期の関節破壊がない状態で適切な治療を受けることが必要とされ、早期診断の重要性が認識されるようになり、より早期の診断を目指して昨年米国と欧州のリウマチ学会が共同で新しい関節リウマチ分類基準を作成しました。その流れとしては、一つでも腫れた関節があった場合、他の疾患を鑑別した上

で、スコアリングを行うというのですが、スコアリングの項目には抗CCP抗体やリウマトイド因子（RF）といった血清学的検査や、CRPや血沈といった急性期反応物質が含まれます。本年の日本リウマチ学会で、この分類基準は、我が国でも適用可能と、結論づけられております。

さて、先生方に通院中の患者さんの中に関節が腫れた患者さんがいらっしゃいましたら、是非関節リウマチの可能性も考えて、上記検査をご考慮下さい。さらに先生方の必要に応じて当科にご紹介頂ければ、診断あるいは生物学的製剤を含めた適切な治療を行わせて頂きます。多くの関節リウマチ患者さんが早期に適切な治療が受けられるよう病診連携を進めていきたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願い致します。

最後に、関節リウマチ以外の全身性エリテマトーデスや血管炎候群などの膠原病に関しても、ステロイド・免疫抑制剤などを用いてエビデンスに基づいた治療を行なっておりますので、合わせてご承知おきいただけますと幸いです。

これまでの御支援に感謝申し上げます

泌尿器科部長 岩崎 皓



泌尿器科には大きく4つの学問領域があります。Nephrology・Oncology・Urodynamics・Andrologyの4つです。横浜市中区の地域支援病院である当院では、救急疾患を含めそれら4つの分野のすべての疾患に対応すべきところですが、残念ながら多くのスタッフが必要な腎移植や、専門性の高い小児泌尿器科学・女性泌尿器科学といった分野の疾患は、状況に応じて当該施設に紹介をしております。当科は横浜市大泌尿器科学教室の関連施設として機能していますが、現在のスタッフは、岩崎皓（横浜市大昭和46年卒・第一泌尿器科部長）、土屋ふとし（横浜市大平成2年卒・第二泌尿器科部長）、滝沢明利（自治医大平成8年卒・副部長）、竹島徹平（横浜市大平成17年卒）、関口善吉（聖マリアンナ医大平成19年卒）の常勤医5人です。（他に新患担当の藤川敦<現・神奈川リハビリテーションセンター勤務>、水野伸彦<現・横浜市大勤務>の二人の非常勤を有します。）常勤医5人のうち4人は日本泌尿器科学会認定の専門医、そのうち3人が指導医です。そのうちの二人（土屋・滝沢）は日本癌治療認定機構癌治療認定医であるとともに一人（土屋）は泌尿器腹腔鏡技術認定医でもあります。また、Andrologistである私が日本性機能学会の専門医とともに日本生殖医療学会認定生殖医療専門医であるため、科としては日本泌尿器科学会専門医教育施設（基幹教育施設）と日本生殖医学会専門医教育施設としての教育指導も行っております。

泌尿器科の診療は他の分野と同様に飛躍的な進

歩を遂げつつあります。当科は東京を含め周辺に名立たる病院や大学がある中、常に最先端の治療を目指すという意識を持ち続けていかねばならない位置にあり、悪性腫瘍に対する手術療法はより小さな視野の中で、より小さな浸襲で行われ、後腹膜鏡下腎部分切除術（腎癌）や小切開創内視鏡下前立腺全摘術（前立腺癌）などが必須となります。その上に集学的治療として最先端の放射線治療や最新の化学療法、分子標的薬治療などこの6年間の間に新たに手がつけられた癌の治療法は枚挙に暇がありません。また、排尿障害に悩む患者さんのために開発された新薬を含め、手術療法として経尿道的前立腺切除術に加えレーザーによる前立腺核出術なども積極的に取り入れております。同時に尿路結石の治療法としても体外破碎術に軟性鏡下のレーザー破碎などを加えより確実な破碎を目指しております。そして不妊という問題、性機能不全という問題は、若い男性にとっては切実な悩みですし、また、老齢の域に達したとは言え、それからの長い人生を有する高齢者の生活のQOLを考える時、LOH（late-onset Hypogonadism）も治療のメリットは十分あると考えており、こうした悩みをもつ患者さんの治療をも引き受けています。

新たな「赤十字の泌尿器科」をこの中区に大きく育てていくことが、みなと赤十字病院泌尿器科の使命と考えています。開業医の先生方、近隣の中核病院との連携をより密にした風通しのよい泌尿器科を目指していく所存です。